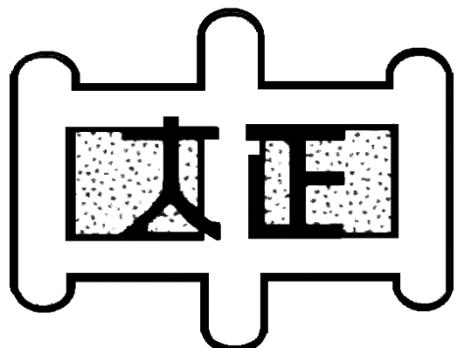


令和7年度

# 運営に関する計画

(中間評価)



大阪市立大正中央中学校

令和7年4月

## 令和7年度 運営に関する計画

### 【学校経営の重点】

# ◇ 自分を創る ◇

— 自ら学び、鍛え、未来の造り手となる生徒の育成 —

### 【本市の教育における最重要目標】

- (1) 安全・安心な教育の推進
- (2) 未来を切り拓く学力・体力の向上
- (3) 学びを支える教育環境の充実

### 【本校の教育目標】

- ◇ 役立つ人
- ◇ 自ら伸びゆく人
- ◇ 朗らかな人

### 《具体的方策》

- 1 基礎的・基本的な教育内容の確実な定着と、生徒の活発な意見をもとにした学習活動を充実し、自ら考え、意欲的に解決する力を育む
- 2 豊かな体験的活動を通して、個性を尊重し、互いに認めあう集団の育成を図り、思いやる心や感動する心を育む
- 3 自らの健康や体力に関心をもち、健康でたくましい心身を養い、自律的な生活習慣や態度を育む
- 4 今日的課題に対応する教育を充実させ、自らの判断で、生きるべき道を選択し、決定するとともに、社会の変化に的確に対応できる力を育む
- 5 地域・保護者の学校支援体制を構築し、家庭や地域の教育力を活かした教育活動を進めるなかで、地域の伝統行事への積極的な参加とともに、地域の一員である自覚と感謝する心を育む

### 《めざす生徒像～3つの“C”》

- ◇ 進んで学ぶ生徒 “Challenge”
- ◇ なかよく助け合う生徒 “Communication”
- ◇ 明るく元気な生徒 “Cheerful”

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

## 【現状】

本校では、年度ごとに全国学力・学習状況調査等、各種調査及び学校評価アンケート（保護者・児童）における調査結果の分析を踏まえ、大正中央中学校「学校教育改善アクションプラン」を策定し、教育活動を進めている。今年度は**2つの「きょういく」（共育・響育）**をテーマに、「**確かな学力の育成**」・「**自尊感情・自己有用間の向上**」・「**健康で心豊かな心身の育成**」を取り組んでいく。

（令和 7 年度 「大正中央中学校 学校教育改善アクションプラン」 参照）

令和 6 年度チャレンジテスト (+1 年チャレンジテスト plus) における**本校平均正答率の対大阪市平均比**は、以下の通りであった。

※（ ）は対大阪府平均比

	国語	社会	数学	理科	英語
3年生	0.79 (0.79)	0.71 (0.71)	0.72 (0.71)	0.81 (0.81)	0.74 (0.74)
2年生	0.92 (0.93)	0.81 (0.82)	0.86 (0.87)	0.98 (1.00)	0.86 (0.86)
1年生	0.83 (0.83)	0.71	0.73 (0.74)	0.74	0.77 (0.77)

平均正答率については、すべての学年で大阪市平均を下回ったが、**2年生の国語、理科**については、**大阪市平均に近づいた**。

また、校内の生徒アンケートにおいて、「**学校の時間以外の家庭学習**」では、1時間以上と回答している生徒の割合は（平日）3年：76.0% 2年：50.8% 1年：47.8% と、家庭学習において**学年が下がるにつれて課題が見られた**。

校内の生徒アンケートにおいて自尊感情の項目である、「**あなたは、自分にはよいところがある**」および「**将来の夢や目標を持っている**」において肯定的な回答をしている生徒の割合は、それぞれ 75.3%、61.8% と、昨年度から改善された項目もある。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、**男子の上体起こしは全国平均を超えている**。しかしながら、男女とも**立ち幅とびは大阪市平均を大きく下回っている**。

## 【課題】

これまでの調査結果から、本校では**学力向上に大きな課題**がある。この課題に対して、**生徒の読解力向上**に取り組んでいくとともに、**家庭学習の定着**に努める必要がある。

生徒の体力における課題改善のために、体育の授業の始まりの準備運動を丁寧に行い、継続させることで生徒の柔軟性、瞬発力、体幹を鍛えていくとともに、**普段から運動ができるような環境**を整えていく必要がある。

また、各種アンケート結果から「**生徒の自尊感情・自己有用感**」の項目や、「**学校が楽しい**」の項目が他の項目よりも低いことがわかる。そのため、本校では「**2つのきょういく『共育』（共に学び育む教育）『響育』（生徒の心に響く教育）**」を教育方針として、「**大正中央中学校 学校教育改善アクションプラン**」に取り組んでいく。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を令和4年度～令和7年度内で前年度より減少させる。
- ・令和7年度末の校内調査において、前年度の不登校生徒の改善の割合を令和4年度～令和7年度内で前年度より増加させる。

### 【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・令和7年度の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする。
- ・令和7年度の中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、令和4年度に対していずれの学年も0.1ポイント向上させる。
- ・令和7年度の大阪市英語能力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を50%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を60%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度末の授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- ・令和7年度内に「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を40%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における、「いじめは許せないことだと思う」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。  
(前年度 87.1%)
- ・年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。  
(前年度 11.1%)
- ・年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。  
(前年度 32.0%)
- ・年度末の校内調査における、「学校の規則や社会のルールを守っている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。  
(前年度 96.6%)
- ・年度末の校内調査における、「自分には良いところがある」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。  
(前年度 75.3%)

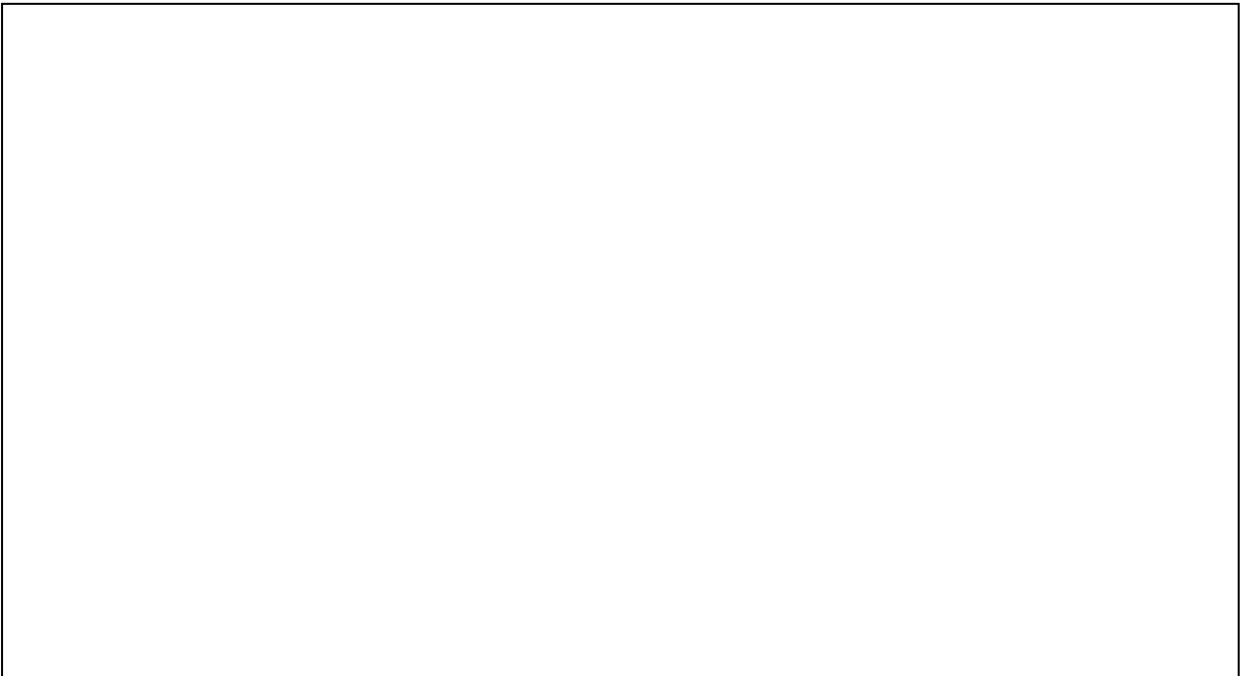
### 【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における、「話し合い活動を通して、他の人の意見を聞くことで自分の考えを深めることができている」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を40%以上にする。  
(前年度 37.6%)
- ・中学生チャレンジテストにおける、国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査における、CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を36%以上にする。  
(前年度 35.5%)
- ・年度末の校内調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好き」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上にする。  
(前年度 52.2%)
- ・年度末の校内調査における、「学校の時間以外の家庭学習」について、1時間以上の生徒の割合を前年度以上にする。  
(前年度 平日 60.7% 休日 50.0%)
- ・全国体力・運動能力、運動習慣調査における、2種目を大阪市平均以上にする。  
(前年度 1種目)
- ・年度末の校内調査における、「毎朝、朝食を食べている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。  
(前年度 89.3%)

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕  
(前年度 22.0%)
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を97%以上にする。  
(前年度 96.6%)
- ・年度末の校内調査における、「学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる」の項目について、肯定的に回答する保護者の割合を88%以上にする。  
(前年度 87.5%)

3 本年度の自己評価結果の総括



大阪市立大正中央中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【安全・安心な教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査における、「いじめは許せないことだと思う」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 (前年度 87.1%)</li> <li>年度末の校内調査における、<u>不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。</u> (前年度 11.1%)</li> <li>年度末の校内調査における、<u>前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</u> (前年度 32.0%)</li> <li>年度末の校内調査における、「学校の規則や社会のルールを守っている」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。</u> (前年度 96.6%)</li> <li>年度末の校内調査における、「自分には良いところがある」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。</u> (前年度 75.3%)</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現 徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの防止や早期発見・対応には学校すべての教職員が自らの問題として受け止め、取り組んでいくことが重要と考え、学校全体で生徒観察、定期的にいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めるとともに、<b>いじめを許さない環境を作る。</b></li> <li>不登校生徒について、いじめ・不登校対策委員会等で議論し、具体的対応策のもと、学年、生活指導部を軸とし、<b>外部機関とも連携し組織的な対応</b>に取り組む。</li> </ul>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査における、「いじめは許せないことだと思う」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 (前年度 87.1%)</li> <li>年度末の校内調査における、<u>前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</u> (前年度 32.0%)</li> </ul>	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現 徳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活を通して、集団規律の確立を心掛け、あいさつ・言葉遣い・身だしなみ等、生徒の規範意識を高める教育に取り組む。</li> <li>集団生活における基本的な生活習慣態度を身につけ、ルールを守るとともに、正しい判断と行動ができる生徒を育成する。</li> </ul>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査における、「学校の規則や社会のルールを守っている」に対して、<u>肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。</u> (前年度 96.6%)</li> </ul>	

取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成 **徳**】

- ・学校教育活動全体を通じた道徳教育活動を進め、人権教育、特別活動など、様々な体験を通して、**生徒同士が互いの違いを認め合い、高め合う教育を実施**する。

指標

- ・生徒アンケートの「命や人権の大切さについて考えることができている」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と答える生徒の割合を前年度以上にする。  
(前年度 71.3%)
- ・生徒アンケートの「友達の気持ちを考え、友達を大切にしている」において、最も肯定的な「よくあてはまる」と回答している生徒の割合を 66.0%以上にする。  
(前年度 65.2%)

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成 **徳**】

- ・**自身がかけがえのない存在**であると実感できるよう、学校教育活動だけではなく家庭・地域等との連携を図り、**自尊感情、自己有用感を高める**。

指標

- ・年度末の校内調査における、「自分には良いところがある」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。  
(前年度 75.3%)
- ・生徒アンケートの「道徳の授業を通して、自分の成長を実感できている」において、肯定的に答える生徒の割合を前年度以上にする。  
(前年度 89.3%)

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現 **徳**】

- ・月に一回、いじめアンケートを実施することで、いじめ事案の早期発見・対応ができる。いじめ・不登校対策委員会についても、月に一回開催し、学校全体で該当の生徒について話し合うことで、生徒ごとにふさわしい手立てについて考えることができている。ステップ教室を継続して開設することで、不登校生徒の登校を支援する一助となっている。

### 取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現 **徳**】

- ・校則改正に向けたアンケートでは、「校則を守っている」の質問に対して、94.1%の生徒が肯定的な回答であった。引き続き、規範意識を高めることで、正しい判断と行動ができる生徒の育成をめざす。

### 取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成 **徳**】

- ・全学年、戦争や平和についての学習に取り組ませたことで命について考えさせることができた。文化発表会では、互いの違いを認めることについて考える内容の劇を扱う予定である。

### 取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成 **徳**】

- ・委員会、係活動での、個人の役割を全うすることが自己有用感を高めることにつながった。多くの生徒が活躍できる場の提供や声かけが今後、必要であると考える。
- ・道徳の授業については、各学年において概ね進捗通りに取り組めている。

次年度への改善点

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査における、「<u>話し合い活動を通して、他の人の意見を聞くことで自分の考えを深めることができている</u>」に対して、<u>最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を40%以上</u>にする。 (前年度 37.6%)</li> <li>中学生チャレンジテストにおける、<u>国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上</u>させる。</li> <li>大阪市英語力調査における、<u>CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を36%以上</u>にする。 (前年度 35.5%)</li> <li>年度末の校内調査における、「<u>学校の時間以外の家庭学習</u>」について、<u>1時間以上の生徒の割合を前年度以上</u>にする。 (前年度 平日 60.7% 休日 50.0%)</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業だけでなく、<u>文理融合的な総合的読解力育成カリキュラムを通したリベラルアーツ教育</u>なども実施して、読み取った情報の要約や考えを形成する学習を行う。</li> <li>課題解決型学習の中で、<u>コミュニケーション活動</u>に取り組み、自分の考えを広めたり、深めたりする学習を行い、思考・判断したことを表現し、それを基に議論する力を養う。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査における以下の質問に対して、<u>最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を目標値以上</u>にする。           <ul style="list-style-type: none"> <li>①「<u>情報を正しく読み取って、まとめることができる。また、そこから自分の考えを持つことができる</u>」 (目標値 25%以上)</li> <li>②「<u>話し合い活動で、自分の考えを他の人に説明することができている</u>」 (目標値 25%以上)</li> <li>③「<u>話し合い活動を通して、他の人の意見を聞くことで自分の考えを深めることができている</u>」 (目標値 35%以上)</li> </ul> </li> </ul> <p>※ (前年度 ①28.1% ②27.0% ③37.6%)</p>	

取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】

- 日々の教育活動全般において、実用的な文章やトピックを取り上げ、**言語活動の充実**を図り、問題を読み解く読解力や教材資料に対する**情報活用能力を育成**する。
- 言語活動・理数教育を通して**「主体的・対話的で深い学び」の授業を展開**し、思考力・判断力・表現力等の育成に取り組む。
- 各教科において小テストや単元テストに取り組み、学習を振り返る機会を短期的にすることで、**生徒の学びに向かう姿勢や学習に対する自己調整力を醸成**する。

指標

- 中学生チャレンジテストにおける、**国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。**

(前年度 2年：国 0.92 数 0.86 1年：国 0.83 数 0.73)

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】

- 授業内の実用ワークやスキルテスト等に**C-NETを効率的に活用**し、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の**英語3技能の強化**を取り組む。
- 目的・場面・状況に応じた実践的な学習法により、生徒一人ひとりのリーディング・スピーキングの機会を増やす。
- 習熟度別授業を活用**し、学習成果を英語表現で表す活動を通し、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の**英語4技能の総合的な強化**を取り組んでいく。

指標

- 大阪市英語力調査における、CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を36%以上にする。** (前年度 35.5%)

取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】

- 授業の予習・復習等に活用できる家庭学習教材を教科ごとに作成し、提供することで、**自主学習の習慣を定着させ**、自ら学ぶ態度を養い、学力の向上を図る。

指標

- 年度末の校内調査における**「学校の時間以外の家庭学習」について、1時間以上の生徒の割合を前年度以上にする。** (前年度 平日 60.7% 休日 50.0%)

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

### 取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】

- ・2年生で取り組んでいる**仮想入社体験プロジェクト**を中心に、キャリア教育を通じた様々な分野の探究活動に取り組んでいる。また、各学年において、**総合的読解力育成カリキュラム**に則り、さまざまな情報を読み取り考える時間を設け、議論する力を身に着けさせるように努めている。

### 取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】

- ・全校的な取り組みとして**適応型言語能力検査（ATLAN）**を実施し、**生徒の読み書きを中心とする言語能力を把握**した。そこから、語彙力などの課題を分析し、各教科での言語活動に生かしている。
- ・各教科において**小テストや単元テストを実施している**。思考力・判断力・表現力を育成するため、班活動やグループワークなど様々な学習形態において「主体的・対話的で深い学び」の授業を開催し、課題に取り組んでいる。
- ・各教科で**ふり返り活動や課題解決型ワークショップを取り入れ**、自ら学習に向かう姿勢や**自己調整力の育成**に取り組んでいる。

### 取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】

- ・C-NETとの授業においては**実生活に基づいた単元目標を設定し、英会話を中心とした授業**に取り組んでいる。特に、「聞くこと」「話すこと」の強化に取り組み、スピーキングテストをC-NETに実施してもらっている。「書くこと」の強化に向けては、新出単語の小テストや単元ごとの小テストを徹底し、生徒への意識付けと定着を図っている。「読むこと」については、長文読解の時間を毎回の授業に組み込んでいる。校内行事のため、習熟度別授業の展開に取り組めていないので、今後実施していく。

### 取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上 知】

- ・**積極的なオンライン課題の活用や学習者用端末での学習が進んでいる**。今後は、各教科において、より一層家庭学習を定着させられるような課題設定をするなど、取り組みを工夫していきたい。

次年度への改善点

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好き」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上にする。 (前年度 52.2%)</li> <li>全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、2種目を大阪市平均以上にする。 (前年度 1種目)</li> <li>年度末の校内調査における、「毎朝、朝食を食べている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。 (前年度 89.3%)</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体力テスト、体育的行事（体育大会等）を日頃の体育の授業や部活動での成果を發揮する場としての位置づけ、体育委員を中心とした主体的活動に取り組む。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全国体力・運動能力、運動習慣等調査における、2種目を大阪市平均以上にする。 (前年度 1種目)</li> <li>年度末の校内調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好き」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上にする。 (前年度 52.2%)</li> </ul>	
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な教科や総合的な学習、特別活動等を通じて健康に関する指導を実施する。</li> <li>今後も感染症の予防のために日常的な健康指導を実施する。また、薬物乱用防止、環境問題などの課題について、正しい知識を身につける取組をおこなう。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートの「自分の健康に気をつけている」において肯定的な回答を前年度より向上させる。 (前年度 84.3%)</li> </ul>	
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の防災活動や避難訓練、救命救急講習などを通して、自助・共助・公助を理解し、日常の備えや的確な判断のもと行動できる態度を育成する。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートの「命や人権の大切さについて考えることができている」において肯定的な回答を前年度より向上させる。 (前年度 99.4%)</li> </ul>	

取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】

- ・生活委員会で、**健康的な生活習慣の意識づけ**を目的とした活動を積極的に行い、生徒一人ひとりが健康に気をつけるように取り組む。
- ・生徒に健康の大切さを身につけさせるために「保健だより」「食育だより」「給食だより」などの資料を定期的に発行し健康意識を向上させる。
- ・食に関する知識を身につけさせるため、**学校給食を生きた教材**とし、各教科の関連する教材と連動した指導をおこなう。

指標

- ・年度末の校内調査における、「**毎朝、朝食を食べている**」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。  
(前年度 89.3%)

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】

- ・今年度も**全学年で新体力テストを実施**した。各自で自己分析できるようにワークシートを工夫した。結果が届き次第分析し、最終評価で報告予定。
- ・**体育の授業や体育大会等の体育的行事**を通して、生徒が自ら考え動くことができるようになり、体育委員の成長が感じられる場面が多く見られた。今後も継続して主体的な活動ができるようにしていく。

取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】

- ・**6月に薬物乱用防止教室を実施**し、薬物の恐ろしさを直接感じられる機会を設けた。
- ・今後も、総合的な学習の時間や各教科の時間に、**健康に関する正しい知識**を身につけられるような学習を計画し、実践していく。

取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】

- ・6月に**避難訓練、緊急時集団下校訓練**、7月に**救急救命講習会**を行い、日常における**防災意識の向上**に努めた。
- ・2学期以降も避難訓練、救急救命講習会を実施して更なる意識の向上に努めていきたい。

取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成 体】

- ・生活委員にて**健康的な生活習慣を意識づける**取り組みを行い、**学校保健委員会にて報告**をする予定である。
- ・「**保健だより」「食育だより」「給食だより**」を発行し、生徒一人ひとりが健康的な生活習慣を身につけられるように努めている。
- ・食に対する意識向上のため、**各学年食育講座を実施**予定。

次年度への改善点

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業日において、<b>生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数</b>が、<b>年間授業日の50%以上</b>にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 (前年度 22.0%)</li> <li>年次有給休暇を<b>10日以上取得する教職員の割合</b>を<b>97%以上</b>にする。 (前年度 96.6%)</li> <li>年度末の校内調査における、「<b>学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる</b>」の項目について、<b>肯定的に回答する保護者の割合</b>を<b>88%以上</b>にする。 (前年度 87.5%)</li> </ul>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 知】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員の授業力向上に向けて、学習者用端末を活用するための校内研修を実施し、授業や家庭学習におけるICT機器の補完的活用法を研究する。</li> <li>ICT機器の整備と効率的な運用を図る。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度末の校内調査における、「<b>学校はICT機器を活用した教育に取り組んでいる</b>」の項目について、<b>肯定的に回答する保護者の割合</b>を<b>88%以上</b>にする。(前年度 87.5%)</li> </ul>	
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 管】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「働き方改革大正中央2023」を引き続き実践していくことで、教職員の時間外勤務時間の削減に努める。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年次有給休暇を<b>10日以上取得する教職員の割合</b>を<b>90%以上</b>にする。</li> </ul>	
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進 管】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校ホームページや学年だよりなどを通して、学校の取り組みを保護者・地域へ広く発信していく。</li> </ul> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートにおいて「<b>学校は、教育方針や教育活動を、学校ホームページや学年だより等でわかりやすく伝えている</b>」において、<b>最も肯定的な回答を前年度以上に</b>する。 (前年度 46.6%)</li> </ul>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①【基本的な方向 6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 知】	・教員の授業力向上のために、新転任者向けに Google Classroom を使用した実技的な校内研修会を1回実施した。教員間の相互授業参観においては学習者用端末の活用をテーマに授業研究に取り組んでいる。年度途中の学習者用端末更新もICT委員を中心に、円滑に対応できている。生徒も、学習者用端末で多様な学習アプリケーションを使用できており、ICT機器を活用した教育活動に取り組めている。
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり 管】	・今年度より、学期末保護者懇談会を教育相談に替えて実施している。その効果として、年間授業時数の上限時数超過の防止、ワークライフバランスのとれた職場環境づくりが見込まれる。指標である、「年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合」については、9/11現在での取得率は31.0%、5日以上の取得率は86.2%となっている。年次有給休暇の取得のタイミングは本人次第ではあるが、必ず10日以上取得するように促していく必要がある。
取組内容③【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進 管】	・学校ホームページにて本校の教育活動について毎日発信している。各学年から発行されている学年通信についても、週1回以上のペースで発行している。今後も継続して本校の教育活動について発信し、保護者・地域の理解を促していくたい。
次年度への改善点	